関連学会印象記

第34回日本集中治療医学会学術集会

公　文　啓　二*

第34回日本集中治療医学会学術集会は，神戸国際展示場・神戸国際会議場・ポートピアホテルを会場に兵庫医科大学救急災害医学，同・救命救急センター教授 丸川征四郎会長のもと，「集中治療の明日を創る－すべてはひとびとのために」をメインテーマに2007年3月1日から3日の3日間開催された．本学会が有限責任中間法人となって初めての開催であり，また丸川会長はいわゆるコンベンションサービス会社の過大な手数料等に呆れ果ててと伺っているが，教室員の皆様が中心になって準備運営された学術集会のあり方も問いなおした学術集会であったが，4000名に達する多数の参加者を集め盛会裏に終了し成功であった．

医師，看護師，臨床工学技士合同部門のプログラムとして，2日目に会長講演「人工呼吸器開発への挑戦：いま，何故，国産人工呼吸器なのか？」が行われ，丸川会長が2000年より開発にかかわっている国産人工呼吸器SSV-200の概要ならびに開発の意義などについて述べられた．随所に新しい試みが取り入れられており，大会前日の招宴でノンフィクション作家松本順司氏による「学の洪庵，術の老柳」が特別講演として組み入れられていた．さらに，特別講演として第1日目には日野原重明先生の「病む人のいのちの尊厳と，そのいのちへの適切な対応」，最終日には武術研究者甲野善紀氏の「二次元世界からの脱皮を」が企画され，筆者自身はいずれも極めて興味深く拝聴することができ，また感化されること多大であった．

医師部門，看護部門，臨床工学部門の唯一の合同シンポジウムとして「重症患者の代謝栄養管理」が大会2日目に行われNSTの取り組みに焦点があてられ発表・議論が行われていた．

医師部門においては，海外からいずれも集中治療領域で世界的に注目されている内容の招請講演7題，幅広い分野にわたる学術講演9題および6題の教育講演が行われた．筆者も大会第1日目に「救急・集中治療領域でも必要な睡眠時無呼吸症候群の知識」と題した教育講演をする機会をいただく光栄にあずかり会長の丸川先生には深く感謝している．医師部門では7つのシンポジウム，6つのパネルディスカッションが行われた．さらに焦点を絞ったミニシンポジウム7つ，ワークショップ2つが行われていた．一般演題の口演90題，ポスター400題が発表され活発な討論がなされた．若手集中治療医の集いには残念ながら筆者は参加できなかったが筆者の古巣国循ICU問題が取り上げられたと聞き及んでいる．

看護部門のプログラムも興味深いものが多かったが残念ながら拝聴できなかった．看護部会長講演として池松裕子氏による「クリティカルケア看護研究がめざすもの」，Mayo Clinic Kathleen K. Zarling氏による「The Pivotal Role of the RN in Coordinating a Multidisciplinary Approach to Patient Care」と題した招請講演，JR事故被災者ならびに毎日放送アナウンサーによる2つの特別講演および3つの教育講演が組まれていた．一般演題口演104題，ポスター47題の発表であった．

臨床工学技士部門では，教育講演3題，シンポジウム2題，一般演題30題の発表があった．

展示ワークショップとして，これも大変優れた企画であると感心しが，臨床工学技士の座長・ディスカッサーの下に第13会場の機器展示ブースで行われたブースを移動しながらの各展示メーカーの担当者が製品説明した討論する時間帯が設けられ，展示メーカーにとって展示機器の何を売り物にしているかという情報を提供する絶好の機会とな

*姫路聖マリア病院　救急部長・副院長

Presented by Medical*Online

り，また参加者は何が特徴かまた疑問をぶつけることのできる場として極めて有意義であった．

節目においてみごとな学術集会を企画し，盛会かつ成功裏に収めました丸川会長に敬意を表しますとともに，来年は，東京医科歯科大学救急災害医学講座教授今井孝祐会長のもと東京で開催されます第35回日本集中治療医学会学術集会で新たな感動を覚えることを期待いたします．

Presented by Medical*Online